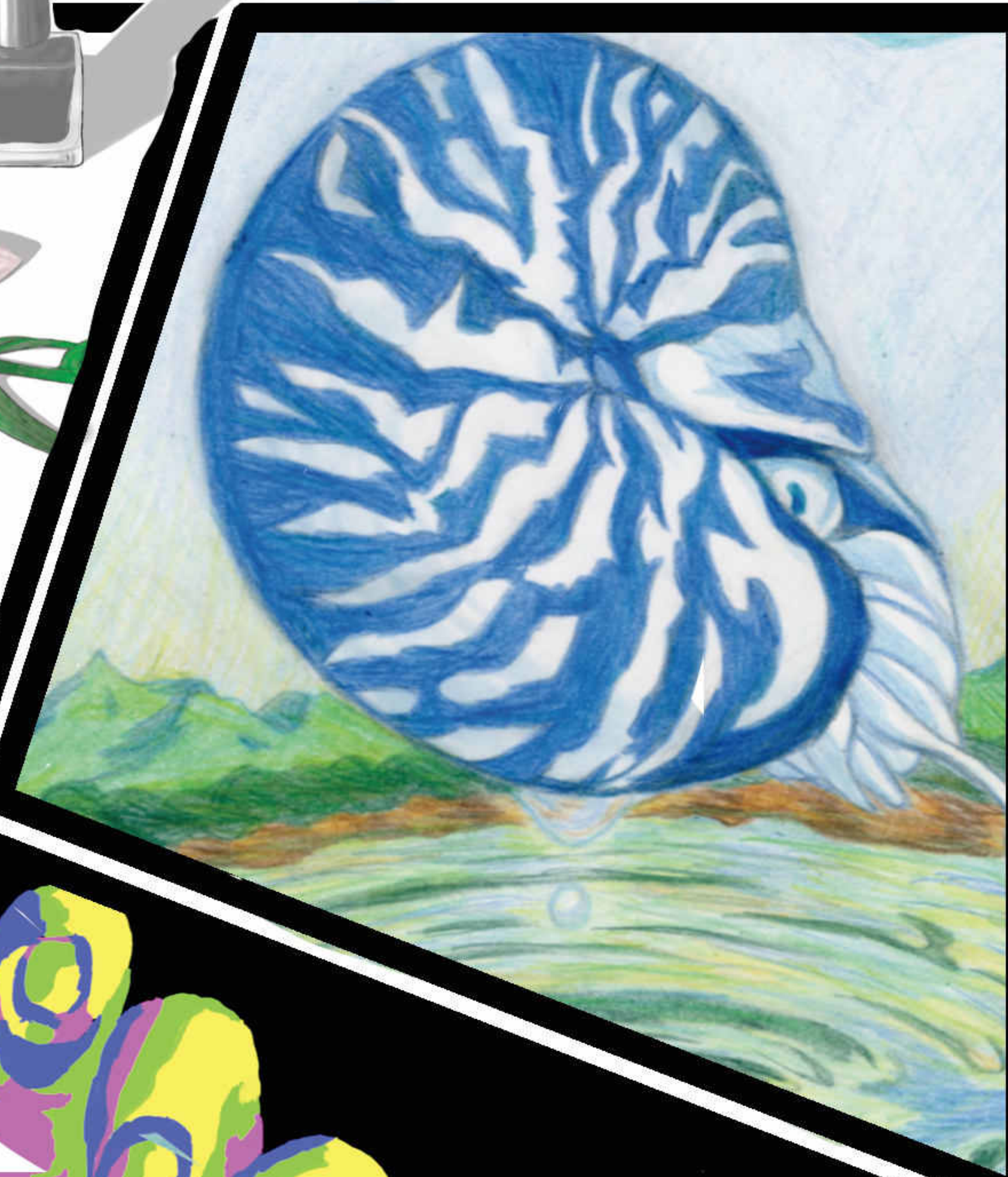
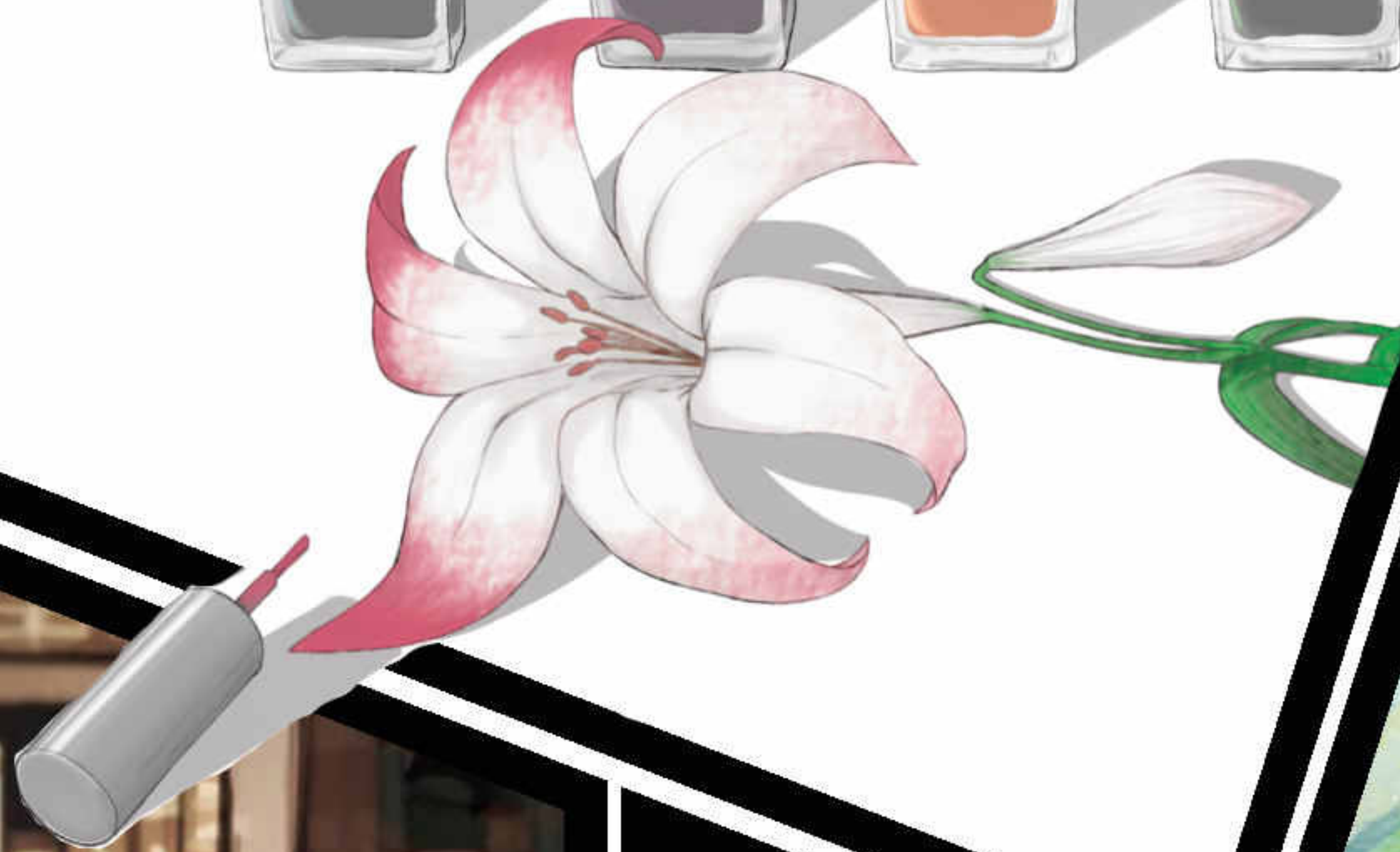
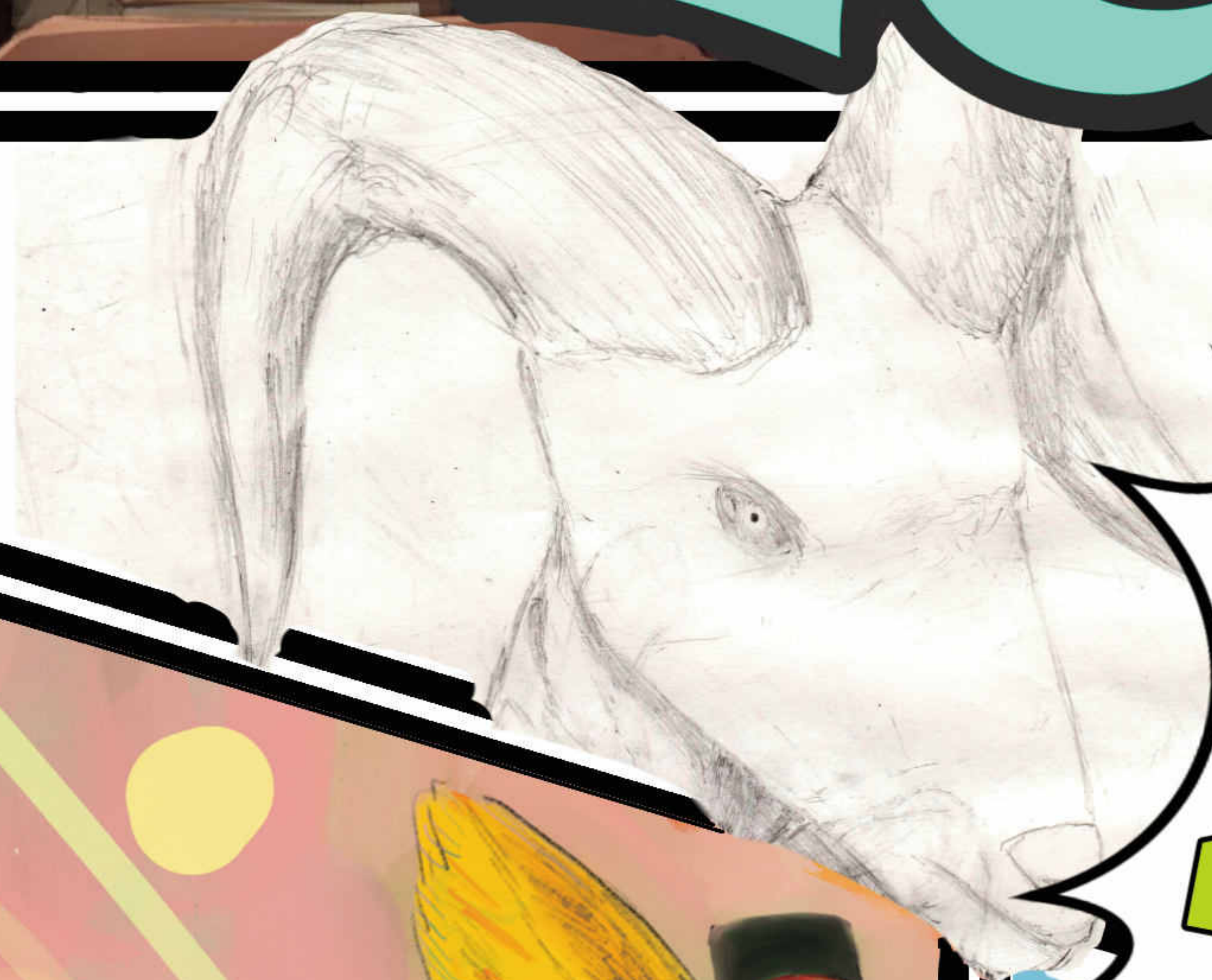




# UECART



# 2020





デッサン

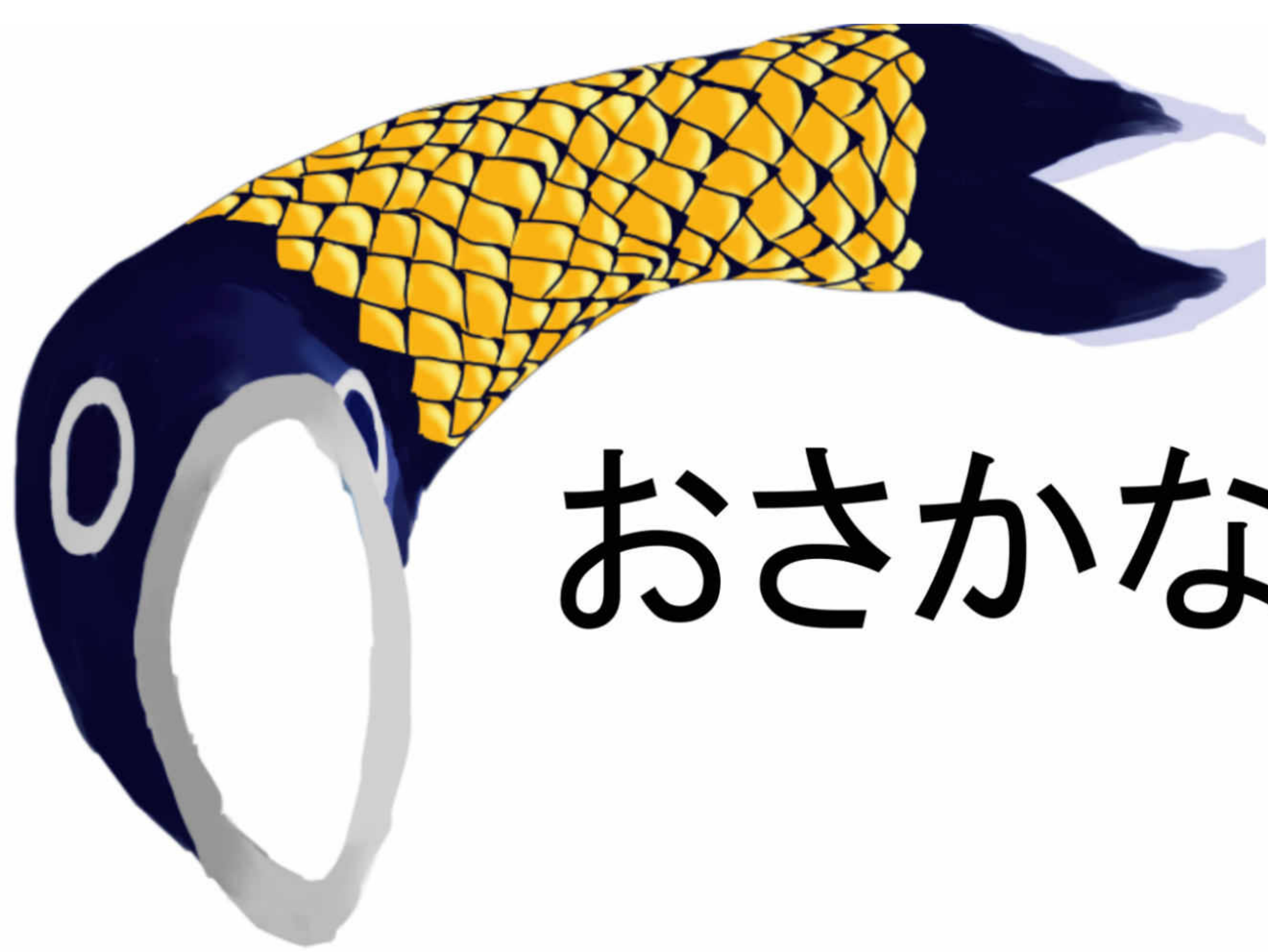


1年 若杉奈々子

5

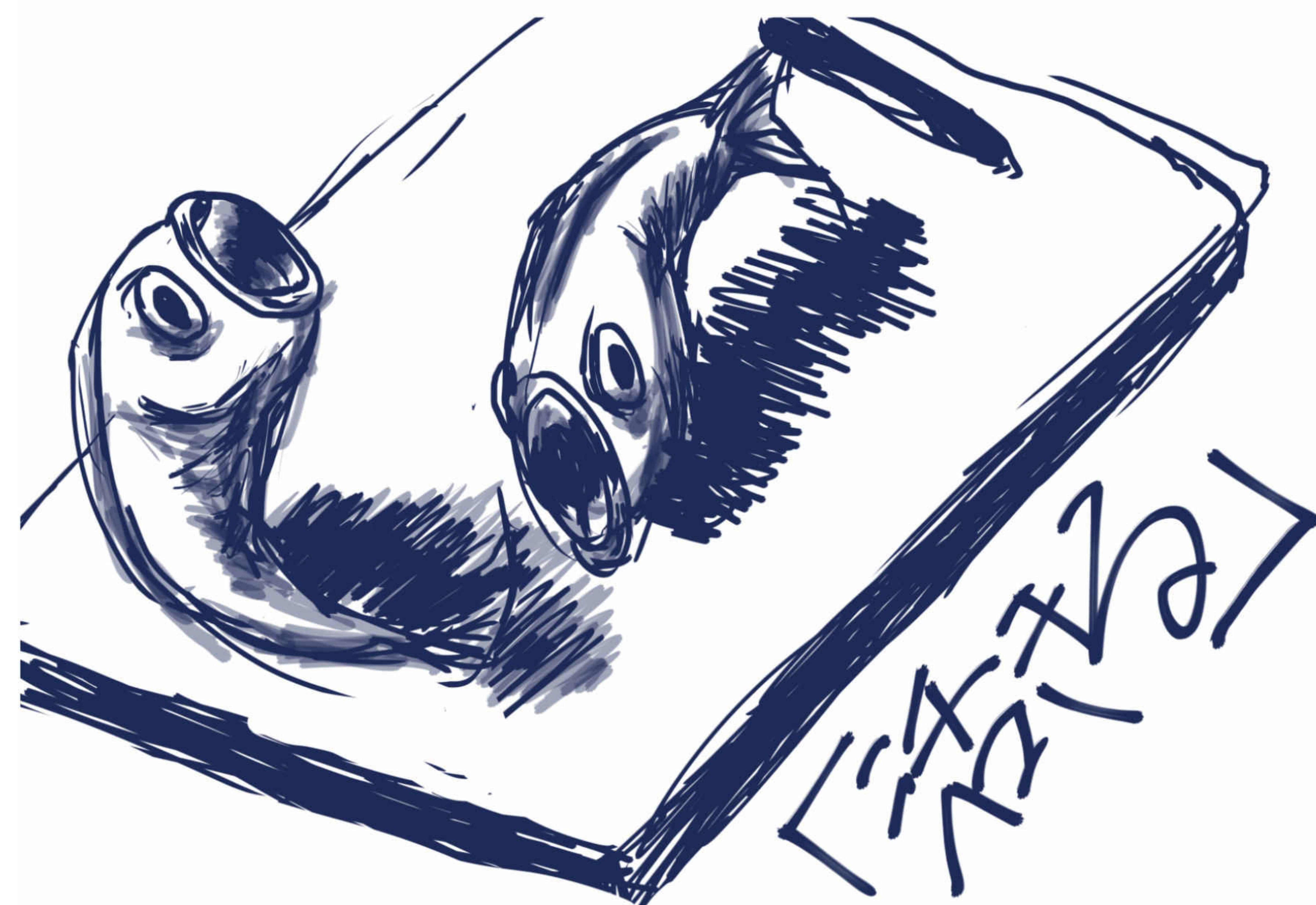






# おさかな

「おさかな」って名前の魚です



## 活きる

初めてクリップスタジオを手にして描いた作品です。  
このおさかなのようにしたたかに生きていきたいですね。  
たとえまな板の上に置かれても...



## ネオこいのぼり

締め切り最後までこれをカレンダーにしようと考えていましたが、考えなおしました。  
現代風こいのぼりです。





地獄の果てでの寿司営業

自分は寿司より肉派です。

by hideking





裝飾

2年 富樫







# 御詫び

どうも服部です(美術部で使っていた名義を完全に忘れた)。

いやはや早いものでもう大学二年生、それも終盤に差し掛かってしまいました。私はというと何も作品を作っていません。はい、そうです。冒頭のアレはそれに関する御詫びでございます。一応弁明させてもらおうと絵を描いていなかったわけではないのですが、それはオタクとしての趣味のものであって栄えある我が「電気通信大学美術部」としてあげるには妥当なものではござらんのです。切腹。外出自粛の影響で春休み気分が延々と抜けないのが原因の一つですね。

それはそれとしてカレンダーのイラストは仕上げたのでそちらの方を見ていただけると非常に助かります。

こちらは自由ページということで手短に好きなものを語ってめらせていただきたいと思います。基本的には動物が好きです。特に白熊と狐が好きです。かわいいですね。美術部の中ではあんまり大したことをできていないので(技術も低めなので)恐縮なんですけどいろいろ描いて挑戦できたらなって思います。ほかにも最近ポップにカートゥーン調のが好きですね。マイナーですが「Bee and Puppycat」という短編海外アニメーション集、おすすめです。Youtubeに公式で全話上がってると思います。YUMEKAWA。

そんなこんなで。ではまたいつか。







c.





t.





b.s.





C. W





作品名：Blue Pearl

作者：Ω-guy

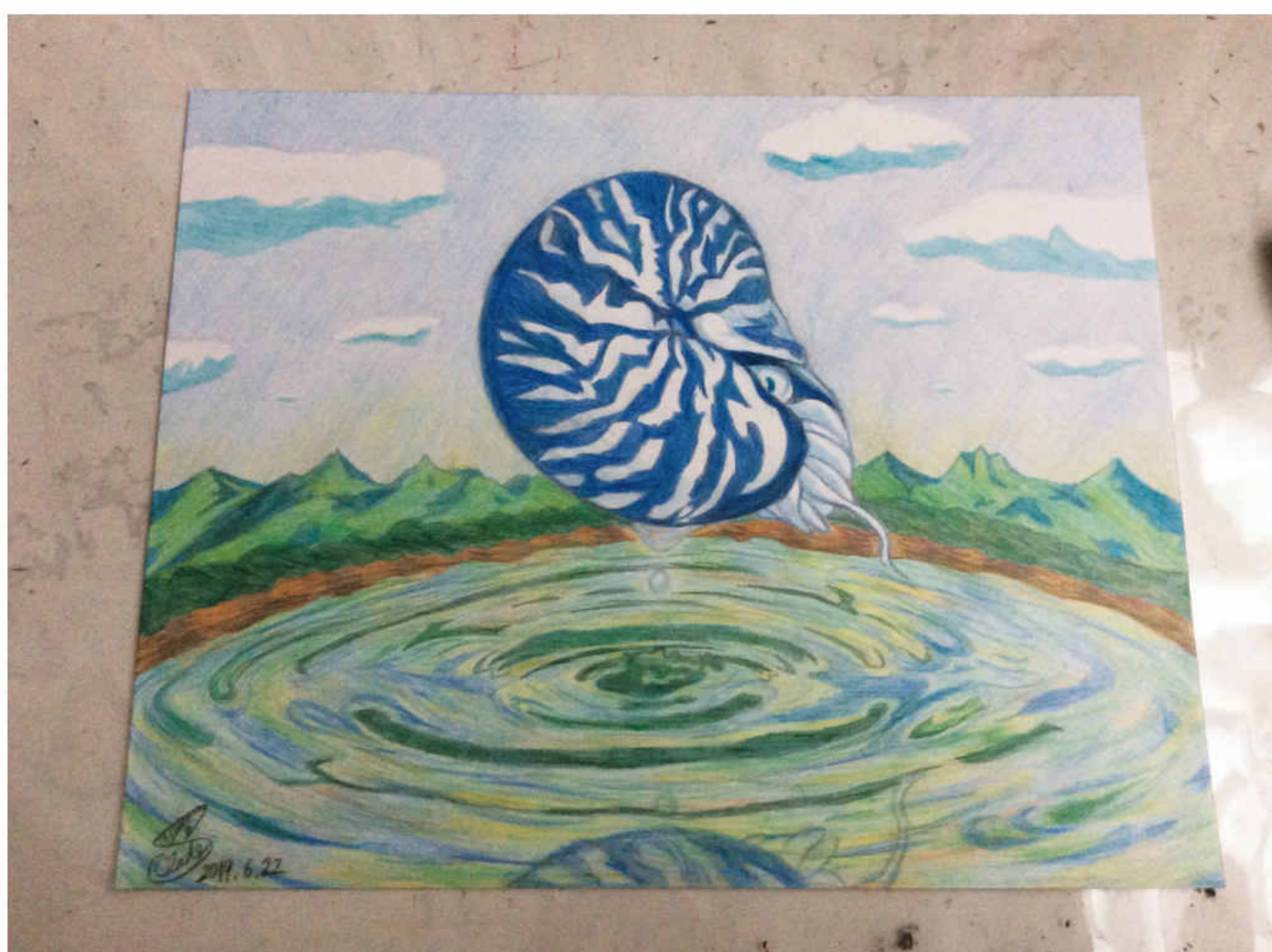
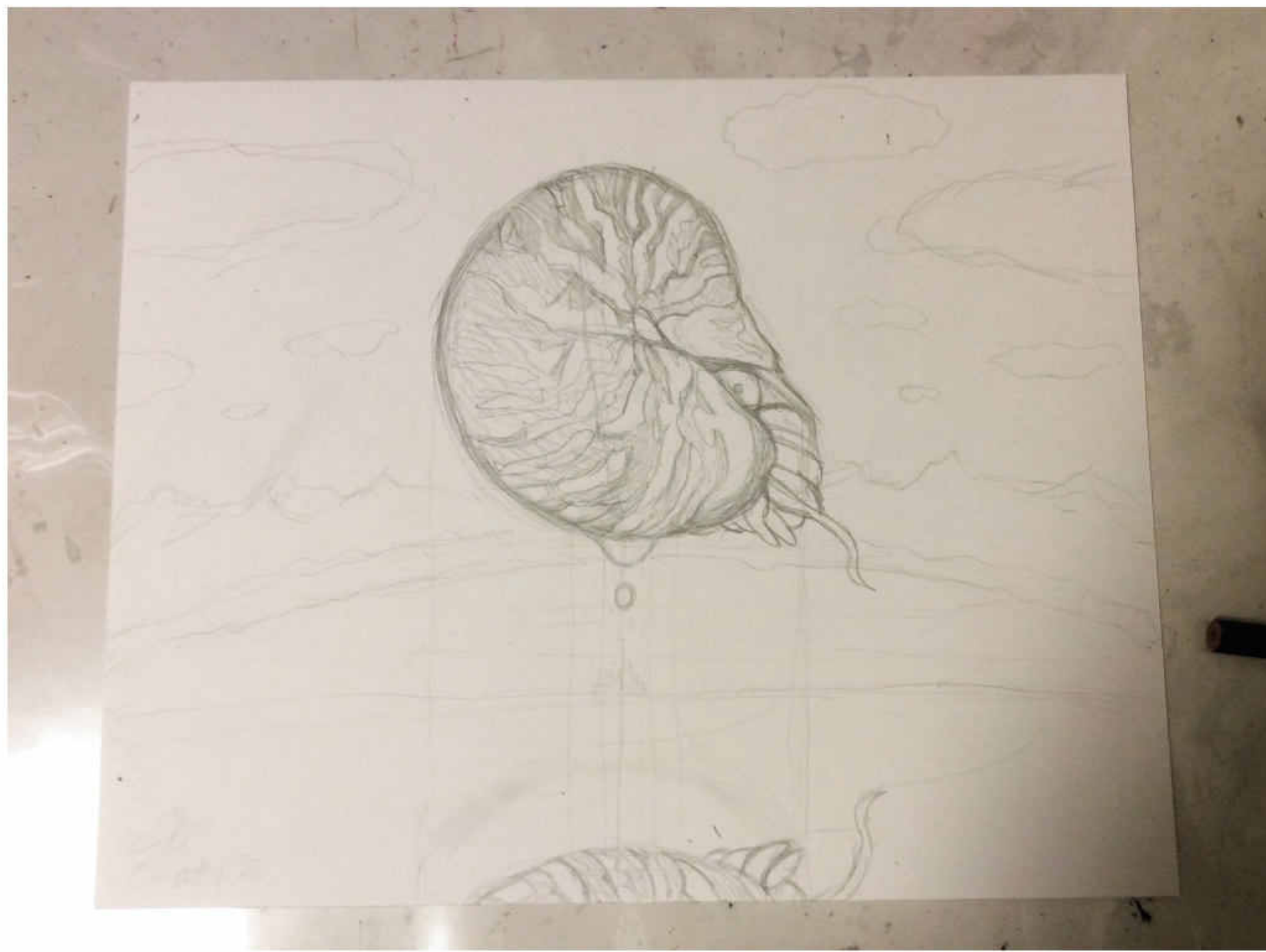
「青展2019」や「翠霄展2019」に出展した絵画作品。

画材は色鉛筆。制作時間は9時間ほど。

白と青の配色が美しい巨大なオウムガイが、自然豊かな山中の湖からおもむろに浮上してくる様子を表現しています。水滴や波紋、そして湖面に映るオウムガイの像を描くのが非常に大変でした。自然環境と生物の一体感を少しでも味わって頂けたら幸いです。



# ～制作過程～



## ①下絵 その1

まずは事前に描いたラフ画を基にして、オウムガイと背景の配置を決めます。続いて、某水族館で撮り集めた写真を見ながら、HBの鉛筆を使ってオウムガイを下書きします。

## ②下絵 その2

オウムガイを描き終えたら、次に背景(山や湖)を下書きします。色塗りの作業を容易にするため、下絵はできるだけ薄く描くように気をつけます。

## ③色塗り仕上げ

消しゴムを使って下絵を消しつつ、色鉛筆で着色します。全体を塗り終えたら、陰影を描き加え、塗りの甘い箇所を補強して完成です。





# KEEP CALM and CARRY ON

3 年 Mon

みなさんこんにちは、Mon と申します。美術部の部誌を見て下さり、ありがとうございます！今年の調布祭では、我々美術部は部誌とカレンダーをオンラインで公開致しました。初の試みですがどうなるのでしょうか？非常に不安で楽しみです。

さてみなさんは上のタイトル、“KEEP CALM and CARRY ON”をご存知でしょうか？ちょっと前に似たような文の広告を見たことがあるよ！という人がいるかもしれません。umbro の“KEEP CALM and PASS IT ON”なんかが有名ですね。ほかにも探せばいろいろな機関が広告にこのデザインをちょっと文を変えて使用しています。イギリス、ドイツ、アメリカなんかでは知られているそうですね(n=1)。シンプルで分かりやすく、インパクトもあって心に残る、そしてなによりかっこいい(←超重要)広告です。

もともとこの広告は、第二次世界大戦下のイギリスのポスターのものでした。意味は「平静を保ち、普段の生活を続けよ」(wiki調べ)です。大戦によって国民がパニックにならないよう企画されたものでしたが、結局使われず、何十年もあと、なんと 2000 年になって再発見され有名になりました。

このポスターをもとに、今年度の冬季節電ポスターを制作<sup>1</sup>しました。承認してくださった施設課さんありがとうございます<sup>2</sup>。今年は世界中で猛威を振るう COVID-19 によって普段の生活は失われています。真偽が分からない情報が飛び交い、死がより身近となった状況で、我々はどう生きるか。考えるヒントになれば幸いです。

---

<sup>1</sup> 初のデジタル作品なのでめっちゃ時間かかりました、、、なんならソフト探すところから始まりました。

<sup>2</sup> 広告として広く使われたデザインとはいえ、もとは戦争のものでしたので非常に不安でした。



つむ

デジタルりんご

色鉛筆の作品を載せたかったけど間に合わなかった、、、。









# 森の舞踏会のこと

## 大貫 豪

### M1

ドラえもののガリバートンネルという秘密道具を知っていますか？

のび太たちは、その道具を使って虫と同じサイズまで小さくなることができ、家の庭にミニチュアの家や公園を作って、自分たち子供達だけのネバーランドを作って遊びました。

悲しいことにその遊園地は大人たちの手によって壊されてしまいましたが、僕はこの話を漫画で読んでから、いつからか自分の通学路の途中にある森の先に、蟋蟀や蝶、リスや雀..., 小さな動物たちの作るネバーランドを想像するようになりました。

その世界では毎日森の近くを通る子供が夕方頃に招待され、気付くと彼らと同じ小さな豆粒大の大きさになり、アリスのように森の中に迷い込んでしまいます。

動物たちは彼を自分たちの輪の中に導き仲良くなると、小さな森の音楽隊として夜更まで切り株をボールルームにした舞踏会を開きます。

蟋蟀はバイオリンを、

リスはどんぐりのマラカスを、

雀は歌を歌い、

...

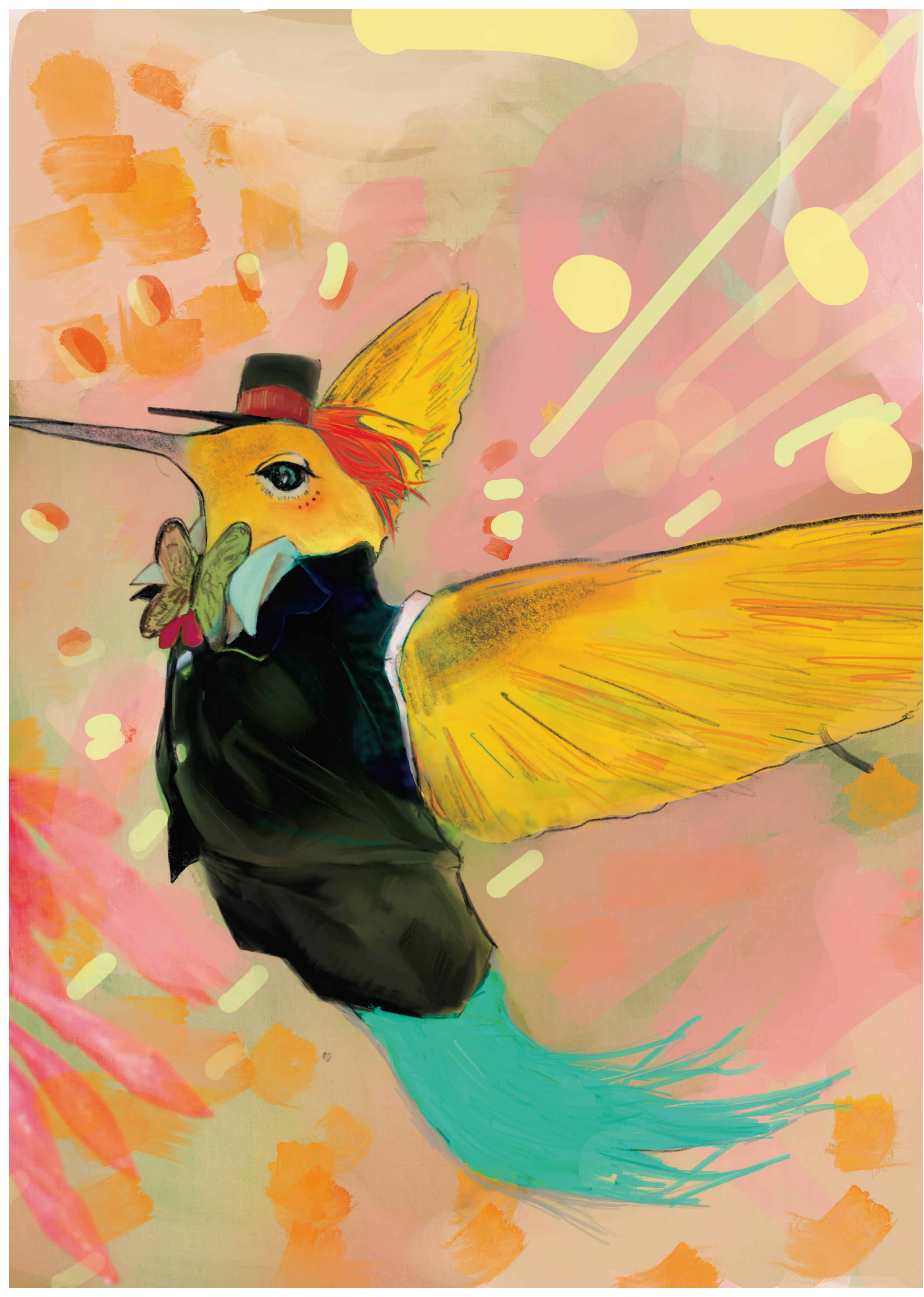
人間だったことを忘れて楽しい時が過ぎ去り、気付くと子供はベットの上で目を覚まします。

不思議と何か暖かい気持ちだけが心の中に残り、どうしても森の中のことをは覚えてはいません。

でも、また彼が家から駅まで向かう森の近くを通る時、その森のことを大切に思わなくては通り過ぎることができない…。懐かしくて大切な彼の思い出の中に、夢の中でたまにそのことを思い出すのです。

そんな絵本が描きたいです。







学名：異世界はちどり

大貫 豪

M1

2042年10月22日の東京都調布市に開かれた異世界ゲートを通じて、

数々の珍しい異世界の文化をはじめ動物、建築、書物、…が持ち込まれたこと  
はご存知だろう。中でも珍しいのが、異世界の魔法によって人語を解したはちどり  
であり、こちらのスケッチに描かれた動物である。

最初に異世界はちどりを発見した、調布市異世界鳥類研究所の曼陀羅御陀仏博士によ  
ると、まるでイギリス紳士のように流暢なジョークとダンディズムを持ち合わせ、イギ  
リス王室公認のブティックのオーダーメイドスーツを着こなし、素敵な人に会うとどこか  
らか摘んできた花びらをくちばしで運んできてくれるようです。

ただし、普段は異世界の森の奥からは出てきてくれないので、出会えることは滅多に  
ないようです。しかしあなたが素敵な女性であればそうとも限らないと、博士は仰って  
います。







ベン・トー・ベン  
大貫 豪  
M1

あまびえ様とベン・トー・ベンのコラボレーションです。  
COVID-19に人々が苦しむ日々がいち早く終わり、平穏が戻りますよう。



大貫 豪  
M1



僕はモトーラ世理奈という女優さんの顔が世界で一番綺麗で素敵で素晴らしいと思っています。  
そんな彼女をモデルに、好きなスラブ装束を着せてみました。ただの趣味です。



いつかはきっと.....

大貫 豪

M1



スラブの衣装を着せた，ミュシャ風のデザインで彩られた可愛い女の子が描きたかったことが伝われば幸いです．異世界のはちどりの彼女の可愛さに釣られて飛んできてしまっていますね．可愛いからしょうがない．



# HANA NO MITSU



すやすや草原で眠っていたら、アゲハ蝶が花と鼻を勘違いしてやってきたようです。



## 編集後記

最後まで 2020 年度部誌をご覧いただきありがとうございます。

今年度はオンラインでの公開となりました。今までよりも多くの方に見ていただけるだろうと思い、部員一同、張り切って作成いたしました。

2020 年度の美術部の主な活動は、

- ・毎週金曜 zoom 部会
- ・新歓
- ・国公立大学合同展示の運営準備
- ・オンライン展覧会

等でした。例年であれば合宿やデッサン会、クリスマス会、100 人飲みと楽しいイベントがたくさんあったはずなのですが…。今年度入部した 1 年生が不憫でなりません…。ウイルスは暑さに弱いから春になれば大丈夫とか、夏は湿気があるから取まるとか、台風が来るから秋はみんな引きこもってくれるはずとか、あと少し耐えれば元の生活に戻れると自らを励ましてきました。ですが、どうでしょう。もう冬です。もう 1 年が経とうとしています。コロちゃんのしぶとさには脱帽です。

いざ対面授業が始まって、長い自粛生活に慣れてしまって通学が辛い！体力がないし、朝起きれない。もう 1 限に間に合う自信がありません。ここまで来たら、ずっとオンラインでよいのではないのでしょうか。真面目な話、オンラインでの活動はメリットが多くあります。今回の部誌も、調布祭がオンライン開催になったおかげで、多くの方に見ていただけるようになったわけです。このように、今回の自粛で得られたものもありました。ですから、2020 年が何もない年だったと悲観することもないかなと私は思うのです。今年得られたことを来年度の活動に活かせたらと思います。

長々と話してしまいましたが、筆者は実験レポートを書き始めたいのでそろそろ締めたと思います。

最後に、作品を提出してくださった方、忙しいところ部会に参加してくださった先輩方、今年度部活動の面倒な仕事を引き受けてくれた後輩たち、緩い雰囲気場で場を和ませてくれた同期、そして、今年度美術部の頭として部員をまとめてくれた部長に、この場を借りて感謝申し上げます。ありがとうございました。本当にお疲れさまでした。

そして、この部誌を開いてくださった皆様、これからも電気通信大学美術部をどうぞよろしく願います。

美術部 3 年 副部長 村谷